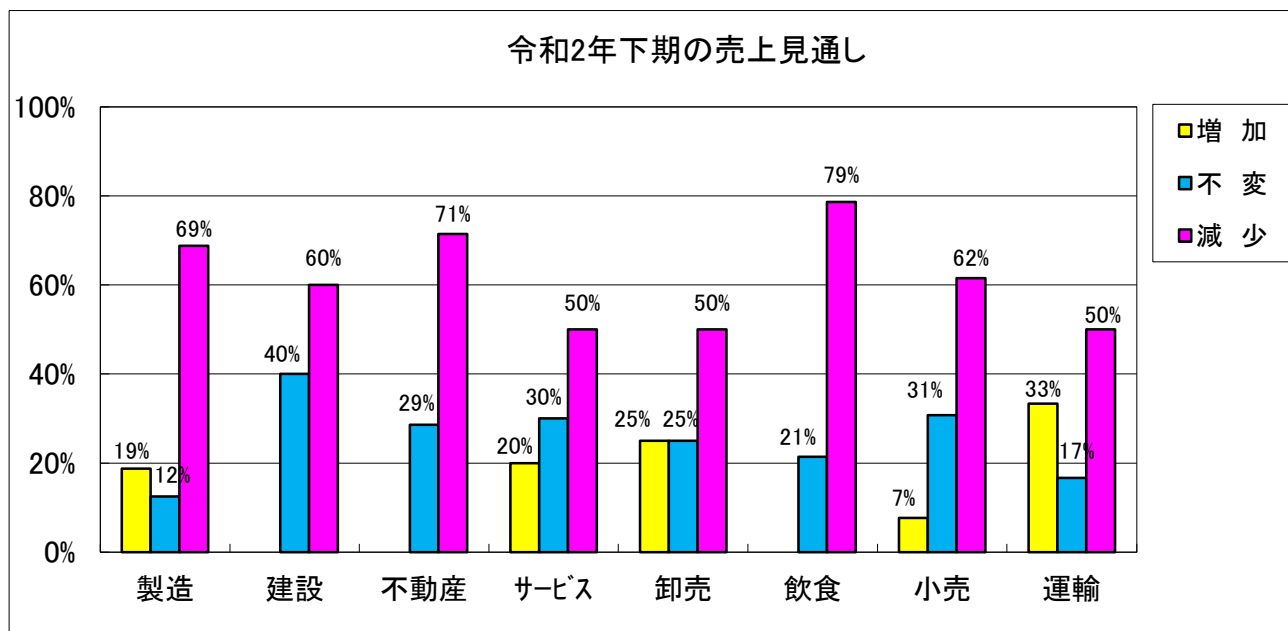


調査2 令和2年1月～6月を基準とした令和2年7月～12月の先行き見通しについて調査した。調査項目は調査1と同じ項目である。⑤業界の景気動向についてはすでに5～6ページで表示してあるのでここでは省略する。

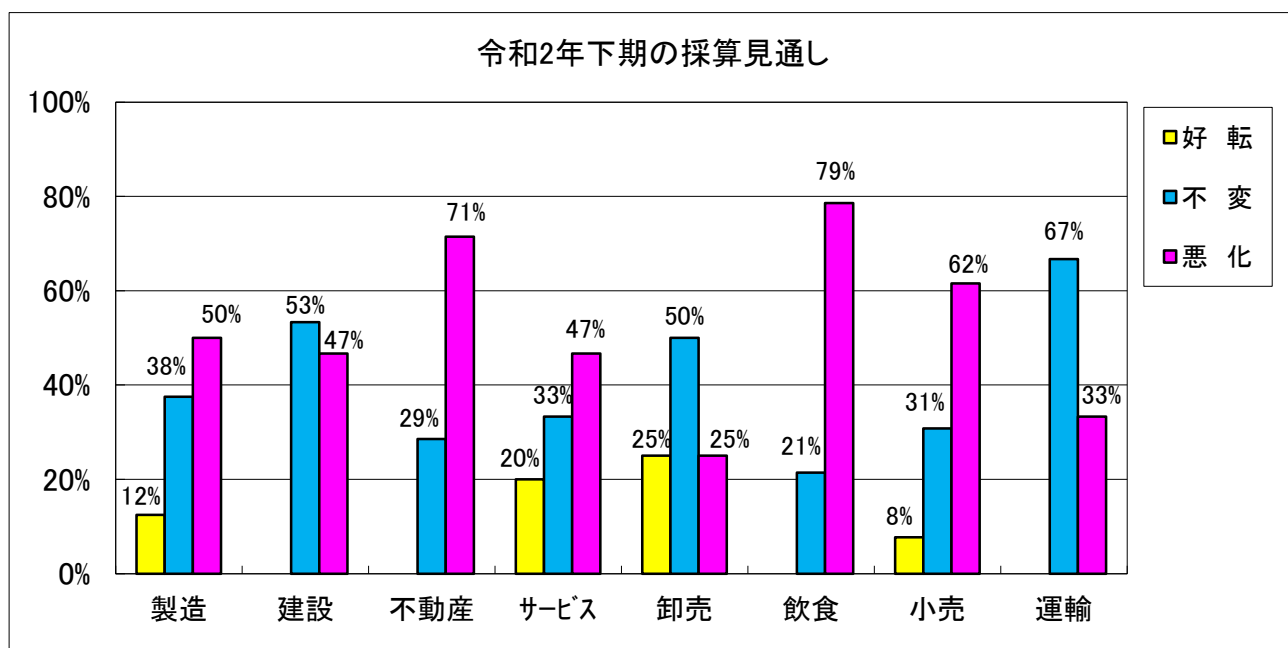
①売上見通し

全体で見ると「増加」12%（前回19%）、「減少」61%（前回40%）、「不変」27%（前回41%）となっている。業種別で見ると「増加」の見通しがあるのが運輸業（40%）、一方、「減少」の見通しが強いの飲食業（79%）であった。



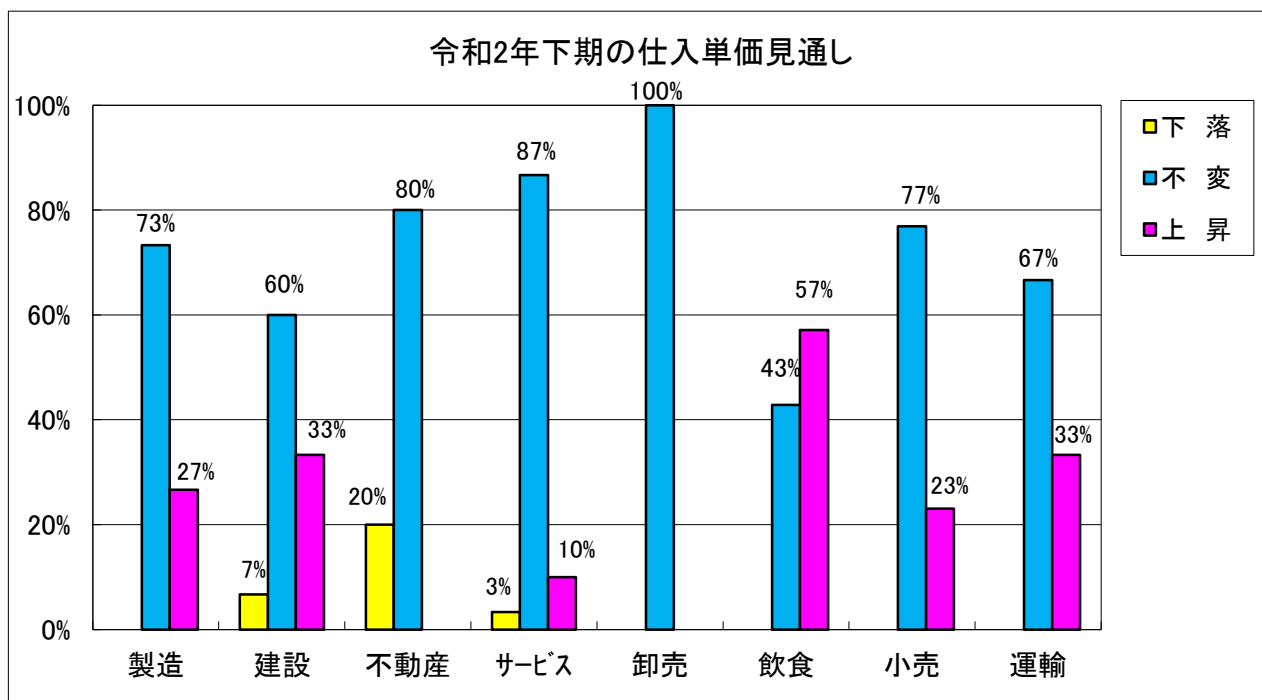
②採算見通し

全体的にみると、「好転」が10%（前回13%）、「不変」が37%（前回56%）、「悪化」が53%（前回31%）となり見通しは厳しいものとなった。業種で見ると、「好転」の見通しが多いのが卸売業（25%）で、「悪化」の見通しが多いのが飲食業（79%）、不動産業（71%）となっている。



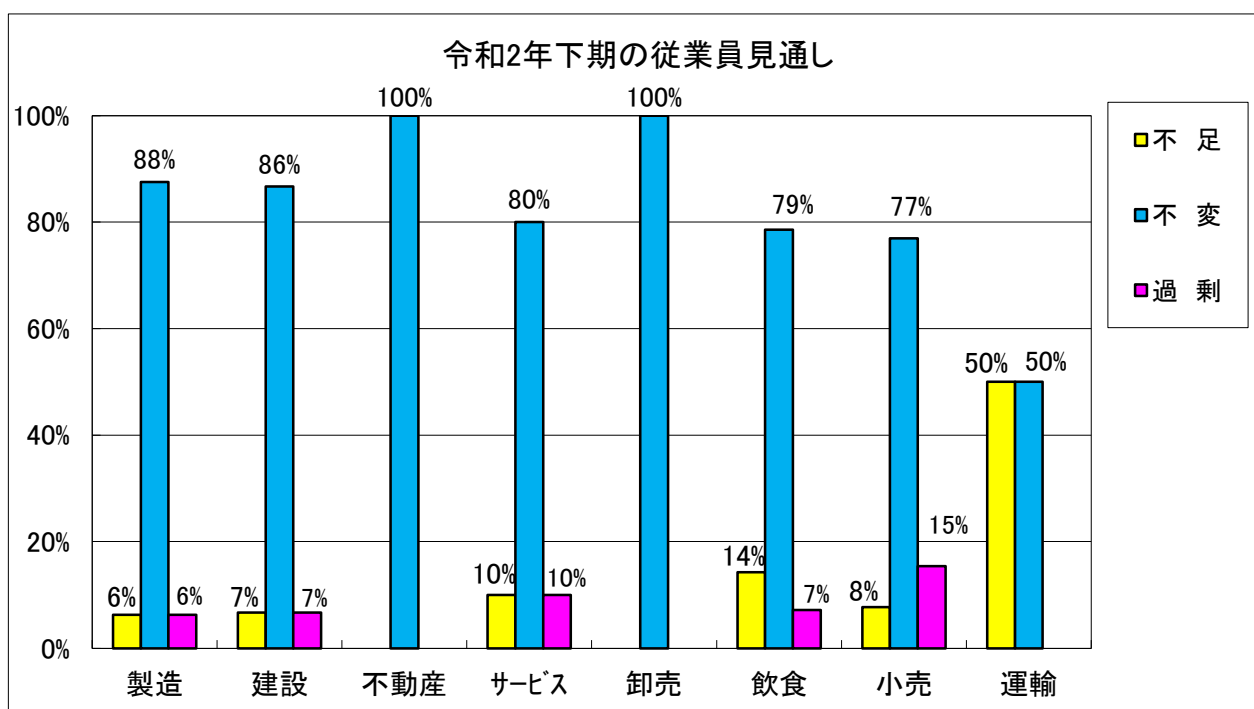
③仕入単価の見通し

全体的には、「不変」が73%（前回58%）、「上昇」が24%（前回49%）の見通し。業種別では「上昇」が高いのは飲食業57%（前回62%）であった。



④従業員の見通し

全体的には、「不足」が10%（前回25%）、「不変」が84%（前回73%）、「過剰」6%（前回2%）であった。前回調査に比べると従業員の不足感は減り、過剰との回答が多くなった。業種別でみると「不足」との見通しが高いのが運輸業50%（前回67%）であった。「過剰」では小売業（15%）が

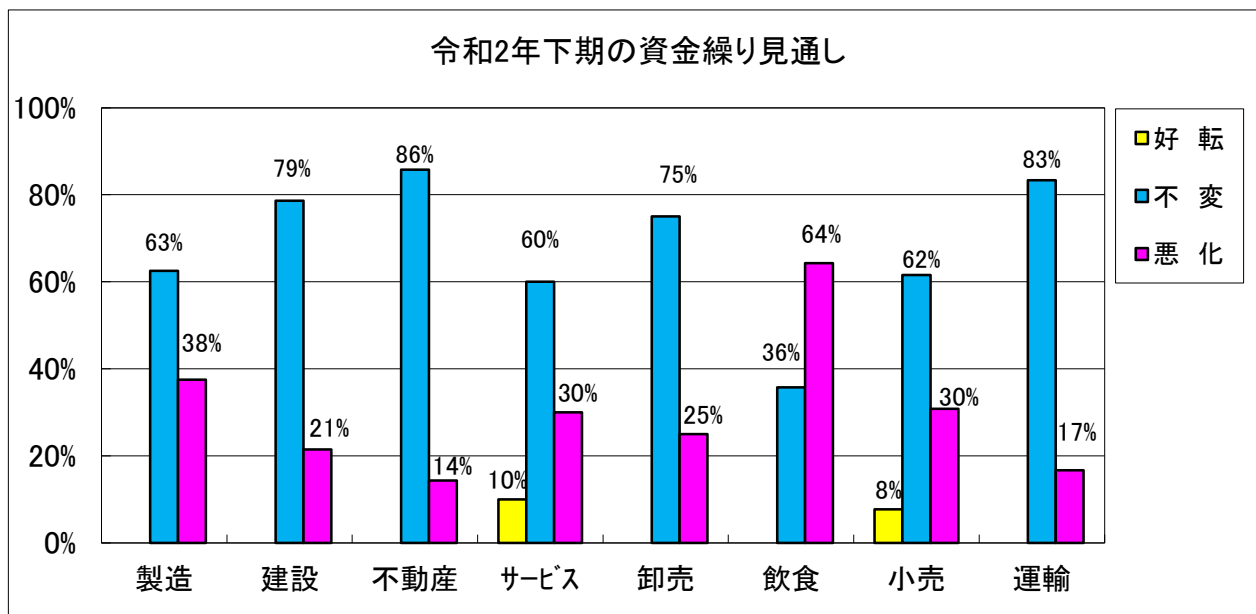


⑤業界の景気動向見通しについて

P5～6を参照。

⑥資金繰りの見通し

全体的に「不変」が63%(前回86%)、「悪化」が33%(11%)、「好転」が4%(3%)となり、資金繰りの悪化の見通しが高くなっている。



⑦金融機関の融資状況見通し

全体的には「不変」(55%)が多く、続いて「融資無し」(22%)、「緩やか」が(14%)「厳しい」(9%)となっている。

